



Newsletter 2023 No.2

日本観光ホスピタリティ教育学会学会報

通巻 第65号 発行 2023年12月28日

◇学会事務局：杏林大学外国語学部 古本泰之
〒181-8612 三鷹市下連雀 5-4-1 杏林大学外国語学部内
Tel 0422-47-8000 (代表) Fax 0422-47-8077 (共用)
email: jimujsthe.org ◇学会 URL : https://jsthe.org
◇編集・発行人：大島知典
(t-oshima@fc.ritsumei.ac.jp)

【第23回全国大会のご案内】

今年度の全国大会は、2024年3月9日(土)・10日(日)の2日間にわたって、「ポストコロナのグローバル人材育成を考える」をテーマに、北星学園大学(札幌)にて開催します。基調講演には、セントラルフロリダ大学ローゼン・ホスピタリティ経営学部より原忠之氏をお迎えし、観光ホスピタリティ分野の最新のトレンドや人材育成について世界的な知見からお話しいたします。また、シンポジウムでは、北海道の観光ホスピタリティ産業の現場や高等学校よりシンポジストをお招きします。大学・高校・実業界を問わず、広く観光ホスピタリティ教育に関心を持つ参加者の皆様のご参考になるものと存じます。さらに、今大会より英語による研究報告・教育実践報告を広く募集し、ワークショップでも一部、日本語・英語のバイリンガル会場の設置を予定し学会の国際化に向けた取り組みを進めています。

なお、1日目の「基調講演・話題提供・シンポジウム・研究報告・教育実践報告」はZoomでの視聴も可能ですので、お誘い合わせの上ふらつてご参加ください。今後随時内容の詳細をお伝えして参りますので、まずは日程をご予定いただき、ウェブサイトをご確認いただければ幸いです。

【理事会報告】

<2023年度第3回理事会>

日時：2023年9月9日(土) 13:00~14:30

リアル会場：明海大学浦安キャンパス講義棟 2階 2204 講義室

オンライン会場：会議システム Zoom

出席：藤田、中村、福本、岩田、大串、坂本、澁谷、鈴鹿、丹治、千葉、中井、難波、野口、古本、高橋、大島知典、峯俊

欠席：板垣、大島安奈、鈴木、森越、橋本

[会長挨拶]

[報告事項]

議事1. 会務報告(各委員会・事務局より)

編集委員会の中村委員長より、機関誌第17号の進捗状況について報告がありました。

[審議事項]

議事1. 2023年度各委員会事業計画

【編集委員会】

中村委員長より、機関誌第17号・第18号及び全国大会発表要旨集の編集・刊行スケジュールについて説明がありました。今年度は機関誌に関する規定の改訂を検討しており、2024年1月理事会にて承認を目指し、それに伴いホームページ上での委員会規定の修正を随時行っていくことが示されました。また、全国大会において英語発表セッションが設けられた場合の大会発表規定の整備等を検討していることが説明されました。

【新規事業委員会】

千葉委員長より「グループ研究助成」と「分科会」に関し、2024年度新規募集に向けて新制度の制定を含め11月までに検討案や実施要項をまとめる予定であることが説明されました。また、過去に提案されていた準会員(大学院生)のFD実施案や表彰制度に関して再検討を行い、2024年度実施を目標に検討していく計画であることが示されました。

【総務委員会】

古本委員長より、総会運営などの事務局業務に加え、年会費や大会参加費等の決済方法を中心としたIT化の推進及び現ウェブサイトの大規模修繕を検討していることが示されました。

【研究事業委員会】

鈴鹿委員長より、11月の理事会にて詳細な事業計画を提示する予定であることが説明されました。

【広報委員会】

野口委員長より、年3回のニューズレターの発行を予定していることや、新規会員の獲得や学会活動の広報のためにSNSの更新を含めた情報発信を行っていく予定であることが説明されました。なお、ウェブサイトの修繕に伴い、総務委員会と連携して柔軟に広報活動を行っていくことが示されました。

【国際化推進事業ワーキンググループ】

藤田リーダーより、海外学会の情報や、海外学会に参加した会員からのレポートをニューズレターなどに掲載し、情報発信することを目指すとの説明がありました。また、今年度もしくは来年度の大会で英語発表セッションを設定することを目指していることが示されました。

議事2. 2023年度全国大会の開催について(日程・場

所・テーマ・実行委員会など)

2024年3月9-10日に北海道北星学園大学で全国大会を開催することが検討されました。それに伴い、森越実行委員長を筆頭に、田中先生(会員)、千葉先生、難波先生、古本総務委員長、中村編集委員長、大串先生(会費決済等担当)の7名で実行委員会が編成されました。なお、3月初旬の北海道で開催されることの懸念として気候や交通面での不安が質問されましたが、北海道に在住している先生方より例年通りであれば心配は少ないとの回答がありました。また、複数の会員から場所や日程の先行的な告知が欲しいとの要望があり、場所と日程が決定次第、第一報として案内を流すことが決定されました。大会の内容やテーマについては、研究事業委員会・森越実行委員長・藤田会長で次回理事会までに草案を作成し、最終決定をする予定です。

議事3. その他

●今後の理事会について

次回理事会:12月2日にオンラインとの併用で関西地域にて実施します。なお、第2回研究会を合わせて実施することを研究事業委員会で検討しています。

次々回理事会:1月20日又は27日にオンラインで実施予定です。

●名誉会員の表記について

逝去された名誉会員はホームページで表記しないこととなりました。それに伴い、本学会の名誉会員は3名となりました。

<2023年度第4回理事会>

日時:2023年12月2日(土)13:00~14:50

リアル会場:阪南大学あべのハルカスキャンパス

オンライン会場:会議システムZoom

出席:藤田、中村、福本、板垣、岩田、大串、大島安奈、坂本、澁谷、鈴鹿、鈴木、千葉、難波、古本、森越、高橋、大島知典、峯俊

欠席:丹治、中井、野口、高橋、森園

[会長挨拶]

[報告事項]

議事1. 会務報告(各委員会・事務局より)

編集委員会の中村委員長より、機関誌第17号の進捗状況について説明がありました。機関誌第17号は2024年2月末に刊行予定です。併せて、今後の業務予定についても説明がありました。

広報委員会より、本日の理事会の内容を踏まえNewsletterを発行することが説明されました。

[審議事項]

議事1. 研究事業委員会事業計画について

研究事業委員会の鈴鹿委員長より、2023年度2024年度の事業計画について説明がありました。研究事業委員会は鈴鹿理事を委員長、福本副会長を副委員長として、全国大会・研究会の素案作り、会員ニーズの調査を行い

ます。

次回理事会が2024年1月20日にオンラインで開催されることが決定しました。2023年度総会については、東京及び東京周辺の大学を会場として調整していくことが了承されました。今後の研究会や総会のテーマは、研究事業委員会が実施するアンケートの結果を踏まえ決定していきます。2024年度全国大会の会場は、西日本での開催を念頭にして調整していくことになりました。

会員に向けたアンケートの実施計画が報告され、了承されました。アンケートへの回答依頼を第2回研究会参加者にするともに、メーリングリスト及びNewsletterを通じて行うことになりました。

議事2. 第23回全国大会について

研究事業委員会の鈴鹿委員長より、第23回全国大会の計画についての説明がありました。第23回全国大会は「ポストコロナのグローバル人材育成を考える(仮)」をテーマに、2024年3月9日(土)・10日(日)に北星学園大学で開催します。

3月9日開催予定の基調講演・シンポジウムの登壇者案について鈴鹿委員長及び開催校の森越理事より説明があり、承認されました。併せて、モデレーターと総合司会が検討され、モデレーターを森越理事が、総合司会を千葉理事が務めることになりました。3月10日開催予定のワークショップのテーマについては1月開催の理事会で決定することになりました。

大会の開催方法について議論されました。本理事会での議論を踏まえ、1月理事会で再検討します。また、参加費について議論されました。会員区別に応じた金額の見直し等、引き続き検討することになりました。

国際化推進WGの藤田リーダーより、全国大会における国際化推進策について説明がありました。第23回全国大会の研究報告・実践報告発表における英語セッションの設定及び、英語によるワークショップの開催が提案され、了承されました。研究報告・実践報告発表での英語セッションの実施方法については、英語発表の申込件数により判断することになりました。また、第23回全国大会での英語発表(英語による要旨の提出及び発表のいずれも義務とする)については、参加を募るため学生非会員の発表を可能とすることが了承されました。

第23回全国大会の「研究発表会」について編集委員会の中村委員長より原稿募集スケジュールや概要の説明がありました。研究発表会での発表は対面を前提とし、一人当たりの持ち時間は「発表15分、質疑4分、入れ替え1分」です。

また、全国大会募集要項、発表要旨執筆要領、応募要旨、要旨テンプレートの変更点について説明がありました。併せて、英語セッションの設置に伴い作成された英語版の全国大会募集要項、発表要旨執筆要領、応募要旨、要旨テンプレートが提示されました。要領等の細かい点については、編集委員会及び全国大会委員会に一任され

ることになりました。

議事3. ウェブサイトの改訂について

時間の関係で、メールでの稟議とすることが了承されました。

議事4. 入退会審査 (敬称略)

2名(正会員1名、準会員1名)の入会申請について承認されるとともに、3名の退会が報告されました。

【機関誌編集委員会】

機関誌『観光ホスピタリティ教育』第18号

＜投稿原稿募集のお知らせ＞

日本観光ホスピタリティ教育学会の機関誌『観光ホスピタリティ教育(英語名: Annals of Tourism & Hospitality Education)』の投稿原稿(論文・教育実践報告)を募集いたします。

会員の皆様がかかわったさまざまな教育実践の取り組みや観光・ホスピタリティ教育に関する学術的な研究の成果をぜひ、本学会の機関誌でご発表ください。論文・教育実践報告とも査読が行われます。会員の皆様からの投稿を編集委員会一同、心からお待ちいたしております。

なお、編集規定、投稿規定、執筆要項、審査規定の一部変更を予定しております。変更の場合は1月の理事会を経て公表します。

■ 第18号の原稿締切日: 2024年4月30日(火)

※締切厳守

原稿投稿先: 投稿申込書1部(Word)と投稿者の氏名を削除した審査用原稿1部(WordドおよびPDF)にて本学会本部事務局(jimu@jsthe.org)にメールで送付してください。申込書は本学会ホームページからダウンロードをお願いします。

【新規事業委員会】

2024年度グループ研究助成制度の募集案内を来年1月下旬より予定しています。募集ご検討のグループは、ご準備の程よろしくお願ひいたします。

【国際化推進事業ワーキンググループ 報告】

以前より学会の課題であった国際化を進めるために、「国際化推進事業ワーキンググループ」が、今年度より立ち上がりました。初年度は以下の事項に取り組む予定です。

- ① 全国大会に英語発表セッションを設け、英語による発表を積極的に推進する。
- ② 海外の観光系学会の開催予定や動向について発信を行う。
- ③ 海外の観光系学会の大会に参加した会員からのレポートをニューズレターなどで共有し情報の発信を図る。

①の英語発表については、外国籍の先生方や大学院の留学生などにも日本において発表する機会を提供することで、会員の獲得にもつなげていくことを目指しています。今年度の大会においては初年度ということもあり、非会員でも第一発表者として発表を認める形で実施する予定です。②と③については、皆様からの情報提供をお待ちしております。

【観光コミュニケーション分科会報告】

観光コミュニケーション分科会では、去る10月21日～22日に小田原市において研究会を実施しました。「インバウンドの再開におけるコミュニケーションの課題」をテーマに、4件の研究発表、フィールド調査などが行われました。1日目のフィールド調査では、「インバウンド客が増加した町の現状と課題: 一教育者・研究者の立場から解決に向け何ができるか」をテーマに、小田原市内を歩き、観察をしたり、インバウンド客に実際に聴き取りをしたりした後、参加者10名で調査結果を共有し課題について話し合いました。2時間のディスカッションの中では、看板やメニューの外国語対応やピクトグラムに関する問題、デジタルツール利用、やさしい日本語使用に関する話題など、様々な問題意識が共有されました。デジタルツールがますます発展していく中で、インバウンド客とのコミュニケーションをはかっている際、言語面のみならず心理面の教育の重要性について話が及びました。これからの時代には、相手の言語使用レベルに寄り添うことのできるコミュニケーション調整力、そして、気持が通じて、相手と円滑な関係を築くことのできるコミュニケーション力がますます重要になることを確認しました。この重要性を発信していくことが、観光や言語教育に関わる私たちに課せられた役割であると考えました。

2日目は、ゲスト講師として東京外国大学の荒川洋平教授をお招きし、本学会員である東海大学の加藤好崇先生とともに「やさしくない日本語」というタイトルで、コロナ前から各地で始まっていたインバウンド客に対する「やさしい日本語」の取り組みについての新たな視点からの再考、という興味深いお話をいただきました。形式にこだわっていた「やさしい日本語」を新たに心や態

度の重要性という面から考えたもので、1日目の私たちのディスカッションの内容と通じるところがありました。

2日間の延べ参加人数は35名で、非常に活発で有益な分科会活動となりました。



フィールドワーク後のディスカッションの様子

【編集人より】

ニューズレターでは、会員の皆さまから提供された観光ホスピタリティ教育の情報や書籍紹介を掲載しております。書籍紹介は、原則として本学会会員が執筆した発行から2年以内の書籍(定期刊行物を除く)を扱います。ぜひ、情報を編集人までお寄せ下さい。
編集・発行人：大島知典（立命館大学）
E-Mail：toshima@fc.ritsumei.ac.jp

【学会 SNS アカウント】

Facebook
<http://www.facebook.com/jsthe.org/>

Twitter
<http://twitter.com/JSTHEducators>

